EREVNA.MAC.23.DOC/ENM/KE3レッスン：24“M”

テーマ：エンドスコピシス

MAC.24M/EN/S7KE3/DOC

 私の兄弟・姉妹たち、

スピリット、光、火の子供たちよ。私達は常に主、絶対、主の聖性の中に抱かれています。

　　前回のレッスンでは黙想（contemplation）について書きました。

**黙想は私達の魂のセルフ・エピグノシスの表現であり、現在のパーソナリティーはその本質の多くの特質を表現しない限り、黙想を表現することはできない、**

と述べました。本質である多くの特質を現わす時、Lifeの現象としての人間は黙想を現わすのです。

　　このレッスンでは、真理の探究者が自らのゴールを達成するために使う必要のある主な道具のひとつについて考察します。多くの人々がそのワークをある種の瞑想(meditation)と呼ぶことでしょう；しかし、そうでしょうか？瞑想とは何であり、どのようなものを真の瞑想とみなすべきでしょうか？

真の瞑想とは、時間・空間の意味の中における意識のセルフ・エピグノシスの活動です；過去に私達は正しい思考を表現することの重要性について、感情・気持について、想念・思考について書きました。

 瞑想、シロジスモス(＊syllogismos、ギリシャ語で瞑想の意）とは、Lifeの現象である現在のパーソナリティーによって表現される何かです。瞑想中、私達は想念の形、エレメンタルを創造しますが、それこそが私達が生みだす様々なタイプの瞑想を決定するのです。瞑想の表現の動機は様々であり、その結果それらの動機が常に純粋であるとは言えません。

 **要するに、現在のパーソナリティーは黙想をせず、思考・行動の仕方から生じる何らかの思考と気持の表現を使用することによって、“シロジスモス”を現します。**

 真理の探究者は常に純粋な動機を抱くようにすべきです。真理の探究者として私達はできる限り純粋な動機を現すために、どのような実修を確立すべきでしょうか？また、ゴールに到達するためにどのようなワークを行うべきでしょうか？

 私達はいわゆるエンドスコピシスと呼ばれる実修を行います。そうです、私達はここでギリシャ語の言葉を使用しますが、その理由はそれが非常に特別なもので、このタイプのワークに当てはまるからです；英語の中には丁度それに該当する言葉が見つかりません。将来、適切な言葉が見つかるかもしれませんが。**私達がエンドスコピシスと言う時、それは“見ること、内側に目を向けること”を意味し、それは自己分析、自己観察、自己考察のワークです。**勿論それは特定の目的、つまりセルフをより良い状態へと向上させ、気づきを高め、絶えずより多くの愛を表現できるようにするためです。

真理の探究者としての私達がこれに関して何を行うにしても、このワーク全てはエンドスコピシスの枠内にある、ということを心に留めておくべきです。エンドスコピシスと言う時、実際そこには何が関係しているでしょうか？このようなアプローチにはいかなるセルフが関係し、働いており、さらになぜ私達はこのタイプのワークを使用するのでしょうか？これら全ての疑問には答えが必要です。

誰がエンドスコピシスを行うのでしょうか？それを行うのは現在のパーソナリティーでしょうか、それとも何らかのエピグノシス（＊内側から来る知識）に動機づけられた他のセルフでしょうか？

page2

 以前私達は、“エピグノシス”が何処から生じるのか、を分析しました。現在のパーソナリティーがワークとして扱おうとする“エピグノシス”です。しかし、その動機はどこから来て、誰がエンドスコピシスを適用・実践するのでしょうか？

 動機は魂のセルフ・エピグノシスのなんらかの“エピグノシス”から来ますが、その“エピグノシス”が実際に適用・実践されるための動きは、現在のパーソナリティーから来ます。

実のところ、その動きは内側から始まり、内側に向かいます。なぜなら、私達はそれに気づいていませんが、魂のセルフ・エピグノシスは夫々の、そしてあらゆる現在のパーソナリティーを豊かにし、活性化するスパークだからです。

動機は魂のセルフ・エピグノシスから来ており、“エンドスコピシス”は運動、つまりキネシスです。キネシスは、何を扱うか、何を分析するかに関するなんらかの“エピグノシス”を両手に持った現在のパーソナリティーが、それらをこのエピグノシスに基づかせて行ないます。

　　このエピグノシスはどのようにして現在のパーソナリティーに投射されるのでしょうか？それ自体によって内側から放射されるのでしょうか？そのような場合もありますが、時には他の兄弟たち、あるいはあなたが属する特定の霊的なスクール（グループ）からの助けが与えられる場合もあります。

　　エンドスコピシスには多くの形態があるのでしょうか、またそれはどのようにして効果をもたらすのでしょうか？私達がまず認識すべきことは、いかなる形態のエンドスコピシスであれそれを行うためには二元性の存在が欠かせない、ということです。問いと答えという二元性の顕現です。しかしながら、この顕現には何かが先立つ必要があります。

エンドスコピシスは二元性を通じてのみ行なわれます。二元性が表現されるためには、その前に観察が必要であり、かくして、フォーカスすること、観察、比較があります。これは今や、探究者にとって“黙想”の始まりです。

黙想という言葉で、私達は時間・空間内におけるセルフ・エピグノシスの動きを意味します。今、時間・空間における黙想について述べているのであり、神の表現の動きである魂のセルフ・エピグノシスの黙想について述べているのではありません。

　　現れであるLifeの現象の諸世界に対するエンドスコピシスと瞑想です。それは前回のレッスンで説明した黙想に関係づけることはできません。勿論、これからも時々黙想という言葉を使うかもしれませんが、それは誤って使用してしまう場合のみです！

**思考と気持が動きだすと、それは瞑想、“シロジスモス”であり、それはサイコノエティカルな像を創造します。**

**エンドスコピシスについては、“エンド”(endo)とは内側を意味し、“スコピシス”(scopisis) は仔細に見るという意味であり、現在のパーソナリティーが何を達成しようとしているか、を調べます。**

現在のパーソナリティーは二元性という要素を必要とし、観察がそれに先立つ、と述べました。

それでは観察の目的とは何でしょうか？それは現在のパーソナリティーを表現するための手段を支配、マスターすることです。それはいかにして達成されるのでしょうか？

現在のパーソナリティーが、＜現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノシス＞の諸体を直接にワークすることによって達成されます。

それは三つの体についての運動-シロジスモスによって達成されます。この場合の“運動”(movement)とは実際の事実にフォーカスすることです。ですから、私達の諸体のダブル・エーテリックに属する様々なエーテルを使用した、集中、フォーカスという運動があります。

　　他の人々へ与え、奉仕するエクササイズをも含めた私達の全てのエクササイズ、そして私達の祈りは、実際にはエンドスコピシスなのです。

それらのワークは現在のパーソナリティーの諸体に影響を及ぼすからです。この形態のエンドスコピシスは、現在のパーソナリティーが三つの体の支配・マスターを達成し、諸体のダメージを修復し、最終的には、助けを必要としている他の同胞に健康をもたらすことができるようになるのを助けます。

　　別の形態のエンドスピシスは刻印エーテルを通じて使用、表現される様々なエーテル、様々な色に関するエクササイズです。

page3

さらに、もう一つの形態のエンドスコピシスとして、自己分析、自己観察があります。毎晩、真理の探究者はこの形態のエンドスコピシスを行うべきです。

それはその日一日の出来事の中で自分自身を見ることによって自分を向上させる、という特別なワークです。

　　結局のところこのワークの目的は、私達の現われのレベルを変える助けをすることであり、全ての形態のエンドスコピシスの目的は同じです。なぜなら、全てのワークは現在のパーソナリティーの諸体に向けられており、**従って思考・行動の仕方を変えることだからです。**

以前述べたように、私達の目的は思考・行動の仕方についてワークすることによってより良いセルフを表現できるようになることであり、その他全ての表現はその上昇の結果なのです。

私達は、このようなワークの結果として生じる以外のパワー・能力を求めることはしません。テクニックあるいはマジックに関するワークは行いません。私達はマジックの使用には反対します。実を言えば、Lifeそれ自体の現れが真のマジックなのです。なぜなら、それは神の本質の現れであり、マジックという能力の表現、つまり偽りの表現とは違うからです。

　　人間は通常何らかの形態のエンドスコピシスを使っているでしょうか？答えはイエスですが、人間が普段使用するエンドスコピシスの形態は非常に拷問的であり、時には自己破壊に導くような罪悪感を現します。エクササイズの目的はそのようなものではありません。私達の目的は現在のパーソナリティーに闘いをもたらすことではなく、また私達の二元性の表現に敵対することはせず、むしろそれに対して訓戒、勧告　(admonition）という姿勢を取ります。訓戒、勧告という態度によって、現在のパーソナリティーは思考・行動の仕方、理解としての善のより高い意味を表現できるようになります。しかし、それには努力、忍耐、持続性が求められます。

あなたが受け取るこの知識は、ただ受容すべきではありません。この知識が動機となって、様々な形態のエンドスコピシスに時間を費やすようにしてください。

質問：シロジスモスはサイキカル体およびノエティカル体へのフォーカスによる結果ですか？

答え：シロジスモスは思考と気持・感情の結果です。それはいくつかのファクターの混交であり、二元性の結果です。しかし黙想は二元性の結果ではありません。法則、原因の中に二元性が既に含まれているかどうか、と問うことができます。そうです、種がそこにあるのは本当ですが、それは何ものにも仕えていません。

二元性はLifeそれ自体の中ではなく、Lifeの現象の中でひとつの目的のために仕えています。人間が自分自身の存在さえも理解するために様々な意味を創造するのは、二元性を通じてです。なぜなら、もし二元性が存在しなかったとしたら、人間は自分自身が存在することさえ認識できないでしょう。知覚を理解することは、二元性の表現と等しいのです。知覚は観察、比較にフォーカスする結果であり、その状態、ステートが意味を作りだします。もしこのステート、状態が投射されなかったら、意味を作りだすことは不可能です。

質問：意識的な努力によって、人は潜在意識に同調するのを止めることができるでしょうか？特に、否定的なことを引き起こすような記録への同調ですが。

答え：もしパーソナリティーが潜在意識から生じる状態をコントロールすることに成功するなら、それは非常に良いことです。それゆえ、苦しみを引き起こすような潜在意識からそのような状況を断つために、他のパーソナリティーが時々他人を助けるのです。忘却という神の法則があるのは、そのような理由によります。人間が忘却することができ、自由に前進できるようになるためです。しかし、潜在意識とのつながりを断とうとすべきではありません。なぜなら、望ましくない結果を引き起こすようになるからです。**何ら感情的影響を受けることなく過去の記憶を表現に浮上させることによって、その過去の状況を直視し、それを生きることができるパーソナリティーは、全てを支配、コントロールしているパーソナリティーです；それはそのパーソナリティーが現在のパーソナリティーの諸体を支配しており、適切なダイビングスーツを着たダイバーのように、潜在意識という大海の底に下降することができることを意味します。**

　　過去のエレメンタルに正しい仕方で向き合う、というのは非常に重要なことです。さもないと、そのエレメンタルに再びエネルギーを与えるという危険のみならず、その望ましくないエレメンタルに似通った多くのエレメンタルを作りだす危険性もあるのです。

これが、エレメンタルが創造された当時の過去の現れの波動へとパーソナリティーが戻り始める時のポイントです。人間が過去に生きることができる場合、前に進むことができず、静止した状態に留まるのはそのような理由によります。いずれにしても、その人は潜在意識を創造することができず、従って自分の経験から何も得ることができず、さらにその人の個別性を確立することも不可能となるでしょう。

質問：私が理解する限りでは、“Augia の馬小屋の掃除”（＊ギリシャ神話に出てくる王の名前）は潜在意識と関連しています。ですから、もし潜在意識の中に入らない場合、それはどのようになるのでしょうか？

答え：**私達は深さという点では潜在意識を浄化することはせず、全ての“過去”の結果である表面、現在の現れを扱います。現在のパーソナリティーとして、私達は過去の経験の総計なのです。私達が扱おうとするのは表面のみであり、潜在意識には決して触れません。潜在意識は動き、記録であり、それを変えることはできません。しかし、表面にあるものなら何でも変えられます。**表面に“望ましい表現”を加えることにより、望ましくないものを深いところに押し込み、永久にそこに留めることになり、決して表面に持ってくることはありません。ただ、パーソナリティーが諸体を支配できるようになった時には、必要がある場合に限り表面に浮上させることもあるかもしれません。

魂のセルフ・エピグノシスがエンドスコピシスを表現するかどうか、考えてみましょう。答えはノーです；しかし、なぜでしょうか？

**魂のセルフ・エピグノシスは存在の諸世界にあるので想念という形態を創造せず、従って魂のセルフ・エピグノシスはより良いセルフを表現する必要がないのです。**存在の諸世界には元型、イデア、法則、原因があり、そこでは結果は顕現しません。しかしながら、実存の諸世界では、イデア、元型、法則、原因の結果として結果があります。

このレッスンは非常に注意深く学ぶ必要があります。というのは、この道をいかにして真剣に進むべきか、というあなたの問いに対する答えがあるからです。

しかし、

**現在のパーソナリティーに甘言を用いてだまし、＜全て良し＞と言う内なる役者に注意する必要があります。今の自分の本当のレベルを見い出すのは困難な仕事であり、痛みに触れることになります。認めたくない嫌なことを避けなければ、報酬として得るものがあります。あなたの努力にアガピを。**

私達は常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。

EREVNA/24M.MEN/SET7.KG3